
赤い部屋

ネコキング

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤い部屋

【Nコード】

N2787K

【作者名】

ネコキング

【あらすじ】

インターネットの怪談・・・それは時に本当になることがあるのかも・・・
人間の思いが作り出したその影は、今夜あなたのところにも舞い降りる・・・！

（前書き）

これは調べていて分かったことを短編にしてみましたー

人間の作った思いが、今夜その怪談を現実にする・・・

その日、私は友達と私を会わせて3人で、インターネットをしていた。

怖い話を選びすぎりして、ユー。ー。ブで動画を見て、Y。O。H。O。Oで色々調べていた。

ちなみに、メンバーは私事、さのはらのなか佐野原菜乃香と、やえもとちはる弥栄本千晴にくろなまき玖菜咲蜜柑みかんの3人で行われた。

「ねえねえ、さっちゃんって知ってる？」

「さっちゃん？なにそれ？」

「知らないんだね。怖いんだよ」

「えゝゝゝさっちゃんって確か歌じゃなかったっけ？でも、3番まで無かったと思うけどゝゝゝ」

この日の会話はこの時から始まった。サッちゃんと言ったら、歌しか思い出せない。幼稚園でよくうたった記憶あるしゝゝゝ

「さっちゃんって、実は、てけてけと同じなんだよね」

「てけてけて、電車にはねられて下半身と上半身が離ればなれになっただけ、その日が例年にないくらいの寒さで血管が細くなつて即死できなかったってやつだったけ？」

「てけてけ？」

「って、アンタはそっちの方を知らないのかい！？」

「まあまあ、それでね、さっちゃんの歌って、結構噂があるんだよね」

「噂？」

「例えば、さっちゃんの歌は10曲まであって、4曲目を駅のホー

ムでうたうとサツちゃんに突き落とされるとか・・・」

「後は？」

「後は・・・忘れちゃった」

「私も忘れちゃった」

「を付けてもごまかせてないからね？」

「「ごめん」」

「いや、別に誤って欲しくて言ったワケじゃないし・・・」

「まあ、で、歌詞はこれね」

友達はインターネットを開くと、ファイルを開いて歌詞を見せてくれた。

「えーっと、

1 さっちゃんはね サチコっていうんだ ほんととはね

だけど ちっちゃいから 自分のこと さっちゃんって呼ぶんだ
よ

可笑しいな サツちゃん

2

さっちゃんはね バナナが大好き ほんとだよ

だけど ちっちゃいから バナナを 半分しか 食べられないの

可哀相ね さっちゃん

3

さっちゃんがね 遠くへ行っちゃうって ほんとかな

だけど ちっちゃいから ぼくのこと 忘れてしまっただろ

寂しいな さっちゃん

4

さっちゃんはね おべえをおいてったって ほんとだよ

だけとちいさいから きつとりにないだろ

かなしいね さっちゃん

5

さっちゃんはね 電車で足をなくしたよ
だからお前の足をもらいに行くよ
今夜だよ 行くよ

6
さっちゃんはね 恨んでいるんだほんとはね
だっておされたから みんなとさよなら悔しいね
あいつらだ さっちゃん

7
さっちゃんはね お顔がないの ほんとだよ
けどちいさいから 自分でお顔を見つけれないの
悲しいね さっちゃん

8
さっちゃんはね カマを持ってた 見たんだよ
だからおしたひと みつけてあたまをとったんだよ
うれしいね さっちゃん

9
さっちゃんはね みんなを殺した ほんとな
だからみんなに 嫌われちゃって泣いちゃったんだよ
寂しいね さっちゃん

10
さっちゃんはね 交通事故で はねられた
だから顔が どこか遠くへ とんでっちゃった
悲しいね さっちゃん

二つ目の歌詞

1 サッちゃんはね サチコっていうんだ ほんとはね
だけど ちっちゃいから 自分のこと サッちゃんって呼ぶんだ
よ

可笑しいな サッちゃん

2 サツちゃんはね バナナが大好き ほんとだよ
だけど ちっちゃいから バナナを 半分しか 食べられないの
可哀相ね サツちゃん

3 サツちゃんがね 遠くへ行っちゃうって ほんとかな
だけど ちっちゃいから ぼくのこと 忘れてしまっただろ
寂しいな サツちゃん

4 さっちゃんがね おべべをおいてった ほんとだよ
だけどちっちゃいから きつと貰いにこないだろ
悲しいな さっちゃん

5 サツちゃんはね 線路で足を なくしたよ
だから お前の 足を もらいに行くんだよ
今夜だよ サツちゃん

6 さっちゃんね、恨んでいるんだホントはね
だって押されたからみんなとさよなら、悔しいね
あいつらだ さっちゃん

7 さっちゃんね 仲間がほしいのほんとにね
だから君も連れて行ってあげる
やさしいでしょ？さっちゃん

8 さっちゃんもね 悔しかったんだ君の事
何で君は生きているの？君がほしいよ
ほしいな さっちゃん

9 さっちゃんはね 今日が死んだ日だから
誕生日がほしいな♪でもきめたんだ
オマエガホシイ さっちゃん

10 さっちゃんはね この歌きくと落ち着くの
あなたもいつしよに歌わない？
あの世で さっちゃん・・・なんか怖いね・・・」

私はこんなの初めて知った・・・

「でしょ？でも、これは本当の歌詞じゃなくて、誰かが作った偽の
歌詞で、余計な物が憑いてるって聞いたことがあるよ？」

「でも、歌詞は歌詞じゃないの？それがそうとも言えないんだよね

」

「まあいいんじゃない？もつと怖い話集めようよ！」

「うん・・・あ、赤い部屋って何だろう？」

「さあ、こればかりは見たこと無いなあ・・・」

「私も」

「じゃあ、見てみようよ！」

「「さんせーい」」

最初は軽い気持ちでサイトを開いてみた。すると、こんな事が記載
されていた。

それは以下の通りである。

これは、最近ネットにはまり始めている友人が話していたことであ
る。

「ねえ、消しちゃいけない広告ページって知ってるか？」

「消しちゃいけないってどういう意味だよ？」

「そのまんまの意味だよ。何でも消したら殺されちゃうらしいぜ？」
「だから何だよ？」

「その広告ページは、あなたは好きですか？っていう、無機質な声が聞こえるだけの広告ページで、サイトにも繋がっていない不思議なサイトなんだって」

「へー・・・」

「俺、その広告探してるんだけど、なかなか出てきてくれないんだよねー」

「ふーん」

「あれ？そう言う反応だけ？でも、まあいつか」

「まあ、俺も今日暇だし、ついでに探してやんよ」

「お、マジ？サンキュー！見つけたら電話してくれよな」

「おう！」

その時は、俺も半信半疑だったが、そのサイトを探すことにした。
だが、1時間後・・・

「・・・やっぱり無いか・・・」

それからは、俺のお気に入りサイトなどを回った。部屋にはマウスのカチツという音と、時計の音だけが鳴り響く部屋・・・特に何事もなくサイトを楽しんでいた・・・

だが、他のサイトに行ったとき・・・

「あ・・・あつた・・・」

俺のパソコンの画面には、あなたは好きですか？と言う文字に、無

機質な声が妙に俺の部屋に響く・・・

「ホントにあつたんだな・・・まあ、消しても良いだろ・・・」

消そうとしたとき、ふと友達が言っていた言葉を思い出す・・・

「消したら殺されちゃうらしいぜ?」

いやいや、こんなの誰かがいたずらで作ったイトだろ・・・
俺はそう自分に言い聞かせて・・・

閉じるを押した。

ところが、閉じるを押すと、また新しいやつが出てきた。

「・・・な、なんだ・・・結局は消せないんじゃないか・・・っと、彼奴に報告してやるか・・・」

俺は、この話を持ちかけた張本人に電話をかけてみる。だが、いくら待っても・・・いくらかけ直しても出てこない。

「おかしいな・・・いつもならいるはずなのに・・・まあ、いつか。それにしてもおもしれーなこれ」

俺は、何回も何回も閉じるを押し続けた・・・そのたびに聞こえるあなたは好きですかの間に何か聞こえるような気がした・・・それもつかの間・・・

「あれ？これって・・・」

あなたは好きですかの間には、まるで破かれたかのような1本の線があった。それが、閉じるを押していくたびにずれていき、新しい文字が見える仕組みになっていた。だが・・・

「なんだよこれ・・・!」

俺はもう閉じるを押していない。なのに、どんどん閉じるが実行さ

れている・・・

そして、最期に見えてきた文字・・・それは・・・

あなたは赤い部屋が好きですか？

俺は、その後後ろから気配を感じた。後ろを振り返ってみるとそこ

には・・・

――――

「ねえねえ、知ってる？昨日、うちの学校の生徒が2人自殺したらしいよー」

「え、嘘でしょ？」

「ホントホント。2人とも頸動脈を切ってて、その人達の部屋は血に染まって・・・」

赤く染まっていたんだってー」

――

「怖ー・・・」

「ちょっと怖いよね・・・」

「うん。こんなの消しちゃおう?」

「うん・・・えっ?」

私たちの目の前の画面にはこうかかれていた・・・

あなたは好きですか？

（後書き）

これは、調べてみて分かったことを短編にしてみました。3人で見たのは本当ですし、こういったサイトのたぐいがあるのも本当です。興味がある方は一度調べてみて下さい。文才がない私ですが、楽しく呼んで頂けたらと・・・

さっちゃんね この歌きーくと落ち着くの
あなたもいつしよに歌わない？
あの世で さっちゃん

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2787k/>

赤い部屋

2010年10月10日19時40分発行